

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105784
法人名	医療法人 北吉田診療所
事業所名	グループホームしょうせきあいあい
所在地	愛媛県松山市南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成24年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎日のDr往診と24時間、看護師を配置し、急変時にも迅速に対応できるようにしている。希望に応じ看取りまで行っている。また、地域や家族の関わりあいを大切にし、本人の残っている能力を活かしながら、生活していけるように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ご家族は、事業所を「最期まで居られる場所」として、利用を希望される方がほとんどである。入居時に口から「食べられなくなった時にどうするか」ということについて、選択肢を挙げて説明し、時期が来た場合にはご家族に決めていただくように伝えている。身体の状態変化時には、医師である法人理事長から直接ご家族に連絡して、今後の治療方針やケア等について話し合っておられる。
●併設の小規模多機能事業所と合同で会議を開催されており、民生委員、前公民館長、前校長や地域の方、ご家族、他事業所の職員も参加してくださっている。会議の案内状は、すべての家族・地域の方を含めて、毎回100通ほどの方に郵送されている。参加することを迷っているご家族には、議題等を伝えて関心を持っていただき、足を運んでいただけるよう働きかけておられる。会議では、毎回、医師である法人理事長が、家庭で役立つ「医療講話」を行っておられる。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年3月22日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしょうせきあいあい

(ユニット名) しょうちゃんユニット

記入者(管理者)

氏名 山岡 尚樹

評価完了日 平成 24 年 2 月 19 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ユニット入り口に理念を掲載し、職員がいつでも確認できるようにしている。実践につなげるため、医療連携終身介護に力を注ぎ、啓発して業務にあたるように努めている。	
			(外部評価) 施設長は、「理念は、作り直すことに意義がある」と考えておられ、ユニットリーダーが代わるごとに、運営方針をもとに各ユニット職員で話し合い、「ユニット理念」を作成されている。ユニット理念は、「その人らしい生活を送れるよう支援」することや「地域に愛され、信頼される施設を目指す」こと等を掲げておられ、職員は自分達で作った理念の実現に向けて、取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭に利用者ならびに職員が参加し、地域交流を深めている。近所の散髪店を利用したり、公園に散歩にいったり等、地域との繋がりを大事にするように努力している。	
			(外部評価) 秋祭りには、神輿や獅子舞が事業所に来てくれて利用者の楽しみになっている。近所の方が、畑で採れた野菜等をおすそわけくださったり、年末に事業所の敷地内で餅つきをしていると、地域の方が、顔を出してくださったりする。町内の「市民大清掃」や「総会」にも職員は参加されており、高齢化が進んでいる地域でもあることから、特に男性職員は地域に頼られているようだ。地域の方から、「代議委員をしてほしい」との要望があり、引き受けられた。	事業所は、「地域の皆様から愛される施設」を目指しておられ、又、職員は、地域の方達と交流する機会もあることから、今後は、地域の方達に事業所に足を運んでもらえるような機会作り等にも取り組まれ、利用者のことも知ってもらえるよう、取り組まれてはどうだろうか。さらには、災害時等、いざという時協力し合えるような関係作りに向けても、取り組みをすすめていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、家族ならびに地域の方に、利用者の症例報告や医療講和等を行い、医療や介護への理解を深めて頂くように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に地域の方々や家族に参加して頂き、状況報告や意見交換の場としている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>併設の小規模多機能事業所と合同で会議を開催されており、民生委員、前公民館長、前校長や地域の方、ご家族、他事業所の職員も参加して下さっている。会議の案内状は、すべての家族・地域の方を含めて、毎回100通ほどの方に郵送されている。参加することを迷っているご家族には、議題等を伝えて関心を持っていただき、足を運んでいただけるよう働きかけておられる。会議では、毎回、医師である法人理事長が、家庭で役立つ「医療講話」を行っておられる。2月の会議では、「熱・血圧・脈の見方」についてお話をされた。又、事業所での行事の様子や日々行っておられるレクリエーションの様子等をスライドショーにして見ていただき、利用者の表情等も見てもらえるよう取り組まれている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市や地域包括支援センターの担当者には、運営推進会議等の場で意見交換を行っている。入居希望者について相談したり、連携をとって協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市の担当者や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加して下さっており、利用者の日常の様子のスライドショーをみて、「屋外でのレクは、利用者の気分転換になるのでいい」と、感想を話してくださったり、「近所との連携を図るように」と、火災等、もしもの時のための体制作りについて、アドバイス等もいただいた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束は生命危機を及ぼすような医療的な場合のみとする。その場合でもスタッフや家族の見守りの可能な場合は拘束をしない様に支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所で持続的な点滴治療を行なっている利用者もあり、以前は、治療上やむをえない場合に限り、ミン等を使用することもあったが、前回の外部評価を受け、「拘束0」に向けて取り組まれた。居間で、職員や利用者と一緒に過ごす時間を多く作ったり、レクリエーションにも参加できるよう取り組み、又、職員の見守りを充実させて、現在、身体拘束をせずケアでカバーされている。施設長は、「玄関の鍵をかけることも拘束である」と職員に話しておられが、現在は、職員の手が足りないような時や利用者が落ち着かないような時には、各ユニットの出入り口には、一時的に施錠することもある。事業所では「日中施錠することのないようケアの工夫について話し合いたい」と話しておられた。今後もさらに、利用者の立場に立ち、自由で安全に生活できるような環境作りについて、話し合いを重ねていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会等の話し合う機会をとり、職員の意識を高めている。また、職員同士が気をつけ合い、虐待が起きないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 適応者には身体傷害者手帳や生活保護の申請を積極的に行い、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には担当職員から、利用者ならびに家族に重要事項を説明し、トラブルがないように注意している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会にこられた家族から、意見・要望を頂いたり、利用者との日々の関わりあいの中での気づきを職員同士で話し合い、管理者を通して運営に活かしている。 (外部評価) 事業所では、しばらくお休みされていた「事業所便り」を、1月に再び発行されたところ、ご家族に喜ばれたことを受けて、今後も定期的に発行することを計画されていた。定期的に来訪されるご家族の方が連絡帳を作られて、「職員が気付いたことを書いておいてほしい」と希望があり、職員とご家族のやり取りをされているケースもある。又、今後は、「お便り」とともに、利用者個別に、日常の様子等を手紙にして同封し、ご家族により詳細な報告ができるよう、取り組みたいと考えておられた。	事業所では、運営推進会議にご家族の参加を増やしたり、家族会の再開も検討されている。事業所からの情報発信と一緒に活動できるような取り組みを工夫して、ご家族と一緒に利用者を支えていかれてほしい。利用する側であるご家族のケアサービスへの希望や要望を引き出せるような取り組みを重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			意見箱の設置や勉強会などを通じて意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
			(外部評価)	
			理事長や施設長の思いを現場に届ける役職を、昨年末から各ユニットに配置されており、職員からの意見や要望も聞き取り、つなぎ役をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			賞与査定を行い、職員の個々の意欲向上を図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			他施設の運営推進会議や各種セミナーに参加し、スキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			運営推進会議に相互で参加して、意見交換を行っている。必要に応じて、利用者の入居相談等を行い、連携を深めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			見学の希望があれば積極的に受け入れ、施設内や日中の過ごし方を説明している。本人ならびに家族からの意見・要望を取り入れ活かしていくように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			見学や相談時に十分な時間をとり、家族の要望をくみ取るようにしている。特に医療については、家族が安心できるよう詳しく説明し、理解して頂いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			本人ならびに家族との面談を通じて、必要としている支援を見極め、当施設で提供可能なことについても十分に説明し、理解頂けるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			対話を中心に、生活の場での知識や知恵を教えて頂いたり家族のような関係を築けていけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			年賀状で利用者の写真を家族へ送ったり、行事便り等で、ホームでの様子が家族に伝わるように工夫し、本人との絆を大切に頂くように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			天気が良い日には、近くの公園や神社等に散歩に出掛けている。また、家族がこられ、一緒に外出したり、近所の理髪店に散髪に行ったりしている。	
			(外部評価)	
			併設の小規模多機能事業所を利用されている配偶者に会いに行くことを支援されたり、又、会いに来てもらえるよう声をかけておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の朝の挨拶を交わしたり、優しく声をかける等、支えあいの関係を築くことができている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 運営推進会議等を通して、地域との連携を強め、サービス利用が終了しても、必要に応じて本人ならびに家族のフォローができるように取り組んでいる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日ごろの関わりあいの中から得た情報や、家族からの意見・要望をもとに、利用者一人ひとりの意思を尊重したケアを行うように努力している。 (外部評価) 利用者の状態に応じて、「生活リズム・パターンシート」や「24時間生活変化シート」を利用して、ご本人の生活リズムを探り、ご本人の自然なリズムを保った支援ができるよう取り組まれている事例もある。事業所ではこれまで、利用者の思いや希望を聴く機会が少なかったことに気付かれて、「昔話、興味のある話を引き出す工夫をする」ことを介護計画に採り入れているケースもみられた。	今後さらに、利用者個々の「その人らしい生活を送れるよう支援」の実践に向けて、日々の中でのいろいろな場面作りに取り組み、利用者個々の行ってみたい場所、会いたい人、食べたいもの等を探って支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の利用者との対話や家族からの情報、以前利用していた施設等からの情報をもとに、本人のこれまでの暮らしを把握するように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式を用い、日々の会話やケアを通じて本人から情報を得たり、職員間で情報交換したりと、総合的な現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	本人の状態や状況を考慮し、本人・家族・職員と話し合い、思いや意向を踏まえて計画作成・プランの見直しに努めている。	
			(外部評価)	毎月、モニタリングを行い、計画の見直しにつなげておられる。ご家族の意向等は、来訪時や電話にてお聞きして反映に努めておられる。利用者には、医療を必要とする方が多く、「サービス担当者会議」には、主治医である理事長や看護師も参加されている。計画は、大きく医療面と生活面の2つの視点から作成されており、「前のように歩けるようになりたい」と、希望される利用者の方には、ご自分の力で老人車を押しながら歩くことができるような支援に取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	利用者の言葉などで日々の出来事を記録し誰が見てもその場面が分かるようにしている。また、ケアの中で気づいたことをカンファレンスを通じて情報共有し、ケアに活かしている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	必要に応じて、一人ひとりの要望に応じていけるように、日々の関わりあいを心がけている。併設している小規模と合同レクやイベントを行い、マンネリ化しないように工夫している。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	地域資源を把握するため、地方祭や町内総会に参加し、交流を深めている。ボランティアの折り紙教室や琴の演奏会等、毎日の暮らしを楽しむことができるよう支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医の往診が毎日あり、症状の変化に的確に対応している。急変時にも主治医やスタッフで迅速に対応・処置し、健康管理に努めている。家族へは主治医から利用者個々の状態を説明している。	
			(外部評価) 事業所では、利用説明時、法人医療機関を主治医とすることをご家族に説明して納得をいただいている。法人理事長は、毎日往診に来られており、検査等が必要な場合は、職員が同行して診療所に行くようにされている。法人理事長が他科受診の必要があると判断された場合は、ご家族に説明し、紹介状を持って職員が付き添って受診されている。ご家族より、他医療機関受診の希望があった場合は、ご家族が付き添われている。協力歯科医が、週1度訪問していただき、治療や口腔清掃の指導等をしていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の日常の状態を把握し変化や異常があればバイタル測定等を行い、看護師に状態を報告する。その後、看護師より、主治医に状態報告を行い、対応している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療機関と連携をとり、相談・情報交換等を行い、早期退院に努めている。また、退院後も継続して療養できる環境人員を整えている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終身介護を前提としており、看取りも数多く行っている。その際は、主治医が早い段階から、本人、ご家族に対し、十分に説明し、最善の医療が行えるよう努めている。また、当初より医療行為に支えられた看取りを希望する利用者を積極的に受け入れている。	
			(外部評価) ご家族は、事業所を「最期まで居られる場所」として、利用を希望される方がほとんどである。入居時に口から「食べられなくなった時にどうするか」ということについて、選択肢を挙げて説明し、時期が来た場合にはご家族に決めていただくように伝えている。ご本人も交えて説明をされるが、「家族に任せる」と言う利用者が多いようである。身体の状態変化時には、医師である法人理事長から直接ご家族に連絡して、今後の治療方針やケア等について話し合っておられる。ご家族が持続点滴を希望され、事業所で医療面、ケア面で対応し、看取られた方もある。事業所は、ご家族が悔いの残らないよう支援することを大切に考えておられ、頻りに面会に来ていただけるよう、ご家族に話しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 24時間看護師が居り、急変時や事故等に備え速やかに処置が行えるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難経路の確認・搬送方法を教わり、訓練を通して、緊急時に備えている。	
			(外部評価) 前年度は、避難訓練の実施に至らなかったことから、今年度は11月、1月と消防署の協力を得て、火災を想定した避難訓練を実施された。夜間想定での避難訓練時には、毛布やシーツを使って利用者を避難させる方法等についても勉強された。11月の訓練では、起震車を体験され、職員自身が「机の下に身を隠すことも難しい」と感じられたようだ。繰り返し訓練を行うことの大切さを感じられ、今後3月にも、夜間想定での火災による避難訓練を予定されていた。施設長は「年に3回は実施していきたい」と話しておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の関わり合いを大切にし、個々の性格や思いを尊重できるようにしている。入浴・オムツ交換等は戸を閉め、プライバシー保護に努めている。	
			(外部評価) 食事介助を必要とする利用者には、器の中をお見せしながら食事の内容を伝えておられる。又、時間をかけてご自分で食べる利用者には、焦らせることのないようにかかわることに気を付けておられた。栄養を経管摂取されている利用者の方も食卓をともにされ、職員とアイコンタクト等でコミュニケーションされていた。時には、棒付きの飴を召し上がられることもあるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何をどうしたいか、会話の中で希望を伺い、選択できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 就寝・起床時間、また食事時間等、個々のペースに合わせて、その人らしい暮らしを支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望にあわせて、理容・美容室へ行き、好みの髪型やカラーリングをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できることに対して利用者の協力を得ている。味付けや調理方法等のアドバイスも頂いたりして一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事は、併設する小規模多機能事業所と合同で、主に調理師が併設の小規模多機能の厨房で調理をされている。ユニットごとの台所では、盛り付けや配膳、食器洗い等をされている。事業所では、献立に野菜を多く採り入れ、一日のカロリーが1600カロリー程度になるように、調理師が施設長と相談しながらメニューを考えておられる。調査訪問時の昼食の際、職員が「〇〇さんの好きな散らし寿司ですね」と声をかけると、にっこり笑って箸を運ぶ利用者の様子がみられた。職員も利用者とともに食卓を囲み、同じものを食べながら、介助等をされていた。持続点滴をされている方は、ミキサー食の食事を摂っておられ、口からの食事だけに切り替えられるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事量・水分量を記録し、確認している。食欲がなく、食事・水分量が少ないようであれば、本人の好む物を家族に相談して用意してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1日3回食後に口腔ケアを行っており、磨けているか職員が確認し、仕上げ磨きを行っている。又、食事をされていない方も1日3回口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 食後や就寝前にトイレに座る習慣をつけてもらい、オムツの使用を減らすように努めている。	
			(外部評価) 利用者の尿意や便意のサインを見逃さず声かけや誘導して、トイレで排泄できるよう支援されている。布パンツで自立されている方やパッド等を使用されていても、汚されることはほとんどないようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) メニューに野菜を多く取り入れたり、十分に水分を摂って頂くよう注意している。又、主治医の支持に従い緩下剤を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回入浴日を設けており、利用者の体調を考慮し、意に沿うように入浴時間を提供している。	
			(外部評価) 以前は、基本的に週2回の入浴とされていたが、回数が少ないのではないかとことに気付き、現在は週3回入浴できるよう取り組まれている。午前中が入浴時間となっており、現在は、その他の時間帯の希望はないようである。利用者の持病や体調等の状態を考慮した結果、シャワー浴のみの方も少なくないようである。持続点滴を行っている利用者の方は、週3回の清拭と毎日の足浴を支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の関わり合いを通じて、生活のリズムを職員同士で把握し、良眠を支援している。昼夜逆転の方は日中の覚醒と活動を促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬に関しては看護師が管理しており、薬の説明書は個々にファイリングし、用法・用量や副作用が確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に洗濯物をたたんで頂いたり、職員と野球や釣り等の会話を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の天候や利用者一人ひとりの体調を見ながら、近くの公園へ桜を見に出掛けたり、初詣に行くなど季節に合わせたイベント参加に努めている。	利用者一人ひとりの外出の希望について探っていくような取り組みも期待される。買い物や外食、懐かしい場所や思い出の場所等に出かけてみるような機会作りにも、取り組んでみてはどうだろうか。利用者一人ひとりの希望を引き出してご本人の意欲につながるような支援に努力していかれてほしい。
			(外部評価) 時には、近くの公園まで散歩に出かけることもある。座位を保つことが難しく、リクライニングの車椅子を使用されている方も、敷地内に出て、気分転換していただけるよう支援に努めておられる。車で出かける時は「車椅子で行ける場所」を職員で選ぶようにされており、動物園や梅津寺等に出かけたこともある。4月には、桜の花見を予定されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理ができる方は小額を持ち、管理の難しい方については、事務所で管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者からの電話希望に対しては速やかに対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 床暖房や朝のエアコン等で温度調節をしている。また、脱衣場では床暖房に加え、ヒーターを使用し、寒さ対策を行っている。入口の観葉植物や手作りカレンダー、折り紙等で季節感を出し、居心地のよい空間づくりを工夫している。</p> <p>(外部評価) 事業所では、お天気のいい日は敷地内に出てレクリエーションを行い、利用者が外の空気にふれることができるよう支援されている。時にはホットプレートを持ち出しておやつを作り、お茶を楽しめることもある。事業所は、居間には、テレビを置かず会話等を楽しめるよう支援されている。又、ユニット毎に新聞を取っておられ、野球のお好きな方は、新聞の試合結果を見ながら、職員と語られるようだ。午後からのレクリエーションは、片方のユニットに集まり風船バレー等を楽しまれており、調査訪問時には、にぎやかな笑い声等が聞こえてきた。居間の一角に、一段高くした畳コーナーが造られているが、現在は、利用者の状態のこともあり、ほとんど利用されておられず、今後、利用者と一緒に活用方法を検討したいと考えておられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングにはテレビを置かず、職員が声かけし、話題を提供している。居室でテレビを見て過ごしたり、リハビリに励まれていたり、個々の生活のリズムを尊重している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室では利用者が使い慣れた家具や趣味で集めていた物等を配置し、心地よく過ごして頂けるように努力している。</p> <p>(外部評価) おしゃれがお好きな方は、服を見えるところに掛けておられたり、花瓶に観葉植物を挿して、毎日ご自分で水を取り替える方もいる。持続的に酸素吸入を必要とされている方は、外出用の携帯酸素ボンベが用意されてあった。入居時、テレビを持ち込まれていない方も、ご本人から「テレビが見たい」と希望があれば、ご家族に伝えて、持って来ていただいている。調査当日は、良いお天気でもあり、窓を開けて換気している居室もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者が心地よく過ごしてもらえるように入浴日に合わせてシーツ交換や居室の掃除を行っている。トイレ等の場所が分かるように紙に大きく書いて貼る等の工夫をしている。</p>	